

右様数種ニ致候所以ハ如何ナル儀ニ御座候哉結構ナル貴下ノ御著述(英文申報書ヲ云フ)中ニモ拝見仕候通歐州ニ於テ所謂長短旋法ハ既ニ呂旋律旋ト御譯ニ相成候得者此等トモ相異リ候様想察仕候

箏(雅樂用)調律ニ就而者七種ノ方法有之孰レモ雅樂用(訳者曰ク俗樂用ノ誤)箏調律ノ方法ヲ示シ候十二種ノ名目ト其名ヲ異ニ致候儀ト承知仕候

琵琶調律六種ノ方法モ雅樂用箏調律法最初ノ六種トマタ相同シキモノト相心得候且胡弓調律ノ二方法モマタ三味線調律ノ終ノ二方法ト同様ノ儀ト承知仕候誠以テ恐縮之至御座候得共前条御指教被成下候ハ、此上モナキ大幸奉存候

日本樂譜ノ方法ヲ説明致候英書又ハ獨逸書ナリトモ御貴下ニ於テ幸ヒ御承知被存有右購入被下野生迄御送付被下候儀相叶候ハ、實以難有仕合奉存候尤モ其費用ハ被仰聞次第速ニ返上可仕候野生友人ニテ清國税関ニ奉職罷在候「バンオールスト」氏ト申者ノ著シ候書ハ一覽仕候得共右者書名ヲ支那音樂ト題シ候モノニ御座候間若思召モ御座候ハ、横濱ケレー及ワルシ商社ニ而販賣致居申候日本音樂ニ就テモ定メ而同種ノ書籍既ニ發行致可申候貴下御編成之結構ナル申報書ニ加フルニ右様ノ書ヲ得候ハ、貴國音樂ノ大体ヲ解スルヲ得可申候上文相願候儀ハ御深切ニ御取計被下候様前以テ茲ニ一言御礼申上置候随テ野生儀當方ニ於テ何ナリトモ御用弁ニ相成候儀御座候ハ、無御遠慮可被仰聞候様奉願候尚野生御依頼ニ及ヒ候儀ニ就而者貴下ノ最モ御親友ニ於カセラレ候様反覆奉懇願候

過般手島君モ「ブラッセル」へ御尋被下御面會仕大慶奉存候明年ハ龍動府ニ第一等ノ萬國音樂博覽會開設ニ相成候得者野生儀モ此機

ヲ以テ歐州ニ於テ貴下へ拝顔仕候様相成候ハ、大幸此事奉存候此儀ハ最モ野生ニトリ快悦之儀ト熱望仕候

右御禮ノ儀ハ更ニ紙上ニ難尽御座候得共不取敢如此尚速ニ貴報奉待上候頓首敬白

千八百八十五年二月十一日

ブラッセルニ於テ
ウキクトル・マヒロン

日本東京

音樂取調所長伊澤修二殿

貴下

〔伊澤修二關係書類〕F十六

〔手書き〕

(二) アメリカ、ニューオーリンズ綿百年期博覽會への参加

明治十七年(一八八四)十二月一日から翌十八年五月三十一日まで開催されたニューオーリンズ綿百年期博覽會は、またの名称を万国工業博覽會といった。この博覽會はアメリカ南部所産の綿類の海外へ輸出開始から百年を記念した催しで、音樂取調掛では「斬新な進歩を示す教育状況を」という呼びかけであった教育部門に、先のロンドン万国衛生博覽會の出品とほぼ同様な物品を展示する計画を立てた。だが本省ではロンドンの博覽會には無代価の出品物が多く、経費がかさんだので、今回は全経費二千元のわくで参加することを打ち出してきた。ロンドンの博覽會経費と比較すると次のようである。

英京博覽會費

一、金千五百圓 物品調整本省支出

一、金千五百圓 物品調整本省支出

物品調整及荷造費トシテ農商務省ヨリ支出

一、金六百圓 運搬費及海上保險料 農商務省ヨリ支出

但此金額ハ全ク推測ニ付増減計リ難シ

計金三千百五拾八圓六拾九錢六厘

米國博覽會費

一、金貳千圓

内譯

千四百圓 物品調整費

六百圓 荷造并運搬保險料

差別

金千百五拾八圓六拾九錢六厘 今回ノ方減ス

(『文部省住復書類』明治十七年)

ニューオーリンズの博覽会には千四百圓の範囲で物品を選択して参加することとなった。

出品目録

雅樂器之部

- 一 鳳笙 一管 篳、囊共 此代金貳拾七圓
- 一 箏 一管 篳、囊、義嘴共 此代金九圓五拾錢
- 一 龍笛、高麗笛 双管 筒、囊、箱共 此代金拾三圓
- 一 神樂笛 一管 筒、囊、箱共 此代金三圓五拾錢
- 一 和琴 一面 柱、琴軋、囊共 箱入 此代金拾八圓
- 一 箏 一面 柱、義甲、囊共 此代金貳拾五圓
- 一 琵琶 一面 撥、囊共 此代金拾八圓

一 和琴、箏、琵琶、箱三個 此代金拾壹圓

俗樂器之部

- 一 箏 一面 柱、龍手、義甲、囊、篳共 此代金三拾五圓三拾錢
- 一 三味線 一挺 撥、駒、囊、篳共 此代金九圓
- 一 胡弓 一挺 弓、白須、駒、囊、篳共 此代金九圓九拾五錢
- 一 尺八 一管 囊、箱共 此代金三圓五拾五錢

書類之部

- 一 小學唱歌集初編、二編、三編、合三冊
- 一 唱歌掛圖初編、續編、二編、壹、格共箱入 三綴
- 一 樂典 一冊
- 一 音樂問答 一冊
- 一 音樂指南 一冊
- 一 音樂取調成績申報書拔萃英文 三十冊
- 一 雅俗樂及唱歌用樂器調音法解説圖 八幅
- 一 外附録アツペンテックス 一冊

和文出品目録

洋文出品目録

(『本省各局住復書類』明治十六年七月ヨリ十八年五月迄)

〔手書き〕

これらの物品は博覽会開会の前明治十七年十一月六日付で、当時取調掛長代理であつた神津專三郎より庶務局長伴正順へ「今般米國博覽會へ本掛出陳諸品之儀ハ兼テ同國波斯敦府音樂院ト樂器等交換ノ内約モ有之候ニ付右閉場後ハ同府エル、ダブリユ、メーソン氏へ送致交換可致見込ニ有之候 總而同氏若クハ其代理人へ引渡候様御取計相成候様該博覽會出張本邦事務官へ豫メ御打合セ置相成度と文并洋文出品目録相添此段

及御照會候也」(『往復書類』明治十七年下)という照會文が寄せられ、閉会後は博覧会事務局より全出品物がメーソンの仲介で、ボストン音楽院と楽器交換の手はずが整えられた。その後ボストンではこれらの物品にどのような興味を示したか記録は残っていない。

この博覧会に關して日本の出品物に対する一般人の興味的一端をのぞかせる一通の手紙が文書綴に保存されている。明治十八年(一八八五)六月十三日サンフランシスコ発信、発信人名は明らかではないが、おそらく博覧会の関係者であろうか。内容は、ニューヨーク・トリビューン紙が、ニューオーリンズの博覧会を通して取調掛の成績状況を紹介したところ、その反響で次の四名が英文申報書を欲しがっており、送付するようにとの依頼文である。

Miss M. P. Mason, Care P. O. Box 218, Montclair, New Jersey.
H. C. Andrews, No. 2 Wall St. Room 64, New York City.
Edward S. Clinch, No. 115 Broad Way, New York City.
F. A. Christie, Johns Hopkins University, Baltimore, Md.

外国人にとつても日本という特殊な事情のもとで、このような短期間に難事業を成し遂げたその偉業は賞賛に価するものであったろう(『諸向往復書類』明治十八年、手書き)。

(三) イギリス、ロンドン発明品博覧会への参加

明治十八年(一八八五)の秋、ロンドンで開催する「英国発明品博覧会」に音楽取調掛は東京大学、東京師範学校、東京女子師範学校とともに参加することとなり、同年三月末に決裁のおりた、次のような物品を出品することになった。

第二部

第三十二區

第百七十五類

音楽取調所調整

番號	物名	數	發明改良者名	製造人	原價 円錢厘
第一號	雅樂用笙	一管			三〇〇〇
第二號	同 龍笛	一管			二〇〇〇
第三號	同 高麗笛	一管			八〇〇〇
第四號	同 神樂笛	一管			八〇〇〇
第五號	同 同	一管			六〇〇〇
第六號	同 同	一個			四〇〇〇
第七號	同 同	一個			五〇〇〇
第八號	同 同	一個			三〇〇〇
第九號	同 同	一個			三〇〇〇
第十號	同 同	一個			三〇〇〇
第十一號	同 同	一個			三〇〇〇
第十二號	同 同	一個			三〇〇〇
第十三號	同 同	一個			三〇〇〇
第十四號	同 同	一個			三〇〇〇
第十五號	同 同	一個			三〇〇〇
第十六號	同 同	一個			三〇〇〇
第十七號	同 同	一個			三〇〇〇
第十八號	同 同	一個			三〇〇〇
第十九號	同 同	一個			三〇〇〇
第二十號	同 同	一個			三〇〇〇
第二十一號	同 同	一個			三〇〇〇
第二十二號	同 同	一個			三〇〇〇
第二十三號	同 同	一個			三〇〇〇
第二十四號	同 同	一個			三〇〇〇
第二十五號	同 同	一個			三〇〇〇
第二十六號	同 同	一個			三〇〇〇
第二十七號	同 同	一個			三〇〇〇
第二十八號	同 同	一個			三〇〇〇
第二十九號	同 同	一個			三〇〇〇
第三十號	同 同	一個			三〇〇〇
第三十一號	同 同	一個			三〇〇〇
第三十二號	同 同	一個			三〇〇〇
第三十三號	同 同	一個			三〇〇〇
第三十四號	同 同	一個			三〇〇〇
第三十五號	同 同	一個			三〇〇〇
第三十六號	同 同	一個			三〇〇〇
第三十七號	同 同	一個			三〇〇〇
第三十八號	同 同	一個			三〇〇〇
第三十九號	同 同	一個			三〇〇〇
第四十號	同 同	一個			三〇〇〇
第四十一號	同 同	一個			三〇〇〇
第四十二號	同 同	一個			三〇〇〇
第四十三號	同 同	一個			三〇〇〇
第四十四號	同 同	一個			三〇〇〇
第四十五號	同 同	一個			三〇〇〇
第四十六號	同 同	一個			三〇〇〇
第四十七號	同 同	一個			三〇〇〇
第四十八號	同 同	一個			三〇〇〇
第四十九號	同 同	一個			三〇〇〇
第五十號	同 同	一個			三〇〇〇

第三十二區 第百七十六類

第一號	第二號	第三號	第四號	第五號
雅樂琵琶平調ノ調子ヲ示スヘキ調音又	俗箏平調子ヲ示スヘキ調音又	日本音樂十二律ヲ示スヘキ調音又	俗曲音調ノ基本ヲ示スヘキ調音又	日本音樂律管
四個	八個	三個	一個	三個
文部省御用掛 芝葛鎮調定	同 山勢松韻調定	同 芝葛鎮調定	同 上	雅樂師 辻高節調定
富岡 米藏	同 人	同 人	同 人	辻高節 重助
一八三〇〇	一七六〇〇	一七六〇〇	三五〇〇	三〇〇〇